

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム山田の里
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市
記入者名 (管理者)	永田妙子
記入日	平成21年2月20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者の方々が、住み慣れた地域で安心した生活が送れるように理念を作っている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝、朝礼時や毎月の勉強会等で唱和している。又、日々のケアについて全員で振り返り、理念の実践に向かって、日々取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族の方には、毎月のホーム便りを活用してお伝えしている。又、家族会やホームの行事の時にも、折に触れて話している。運営推進会議を開き、地域の方々にも説明をして理解していただいている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>朝夕の挨拶や散歩時に、立ち話をさせていただいている。入居者の方々や職員にも気さくに「おはよう、元気な」等と声かけをしてもらっている。散歩時には時々、季節の花々をいただいたりし日常のお付き合いをしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の小学校の運動会や文化祭等に見学に行き、子供達とのふれあいの機会を作っている。又、中学生のボランティア及び近くの保育園児のボランティアも受け入れている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩に行った時等に「たまには、お茶のみに来てください」と声かけしたりして近況や今、困った事等はないかさりげなく聞き、アドバイスが出来るように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎回、評価の意義や目的を理解し、外部評価で指摘された部分については、全職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者より、いただいた意見や案等については取り組み、次の運営推進会議に取り組みの報告をおこなっている。又、アドバイス等も頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者(保護課)とは、利用者の生活状況やケアプランサービスについても伝えてたり相談したりしている。サービスの質の向上を図っている。	○	市町村の方に、運営推進会議に出席して頂けるように働きかけていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修を受けた職員による内部研修を行い、全職員が学んだが、現在は必要性はない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症高齢者の立場に立って、サービスの提供をおこなうようにしている。又、研修会、勉強会等でも話題に取り上げて、日々のケアに活かすようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に、利用者及び家族には話をして説明し同意を得ている。又、入院された時にも、不安を抱かれたりする時もあるので、その都度説明している。ご本人、ご家族が安心してサービスを受けられるように支援している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員を受け入れており、利用者の意見、要望、苦情を聞く機会を作っている。利用者、ご家族とも日頃の談話を通じて気軽に話せる関係を作っている。常に利用者、家族からの情報を反映させるようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回の山田の里便りを出している。その中に、担当者、ケアマネジャーからのコメント等も記載している。体調不良時はその都度、電話報告している。金銭管理の面では、個人の出納帳を作り面会時に説明しサインをもらっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に、市や県の苦情相談窓口をお知らせしている。家族会や毎月の行事等へ参加された時に、要望等を聞き運営に反映させるようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は日常生活の会話の中で、職員の意見や提案を聞き施設長と随意連絡報告相談し、反映させるようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況により、勤務体制は考えて勤務を作成している。例えば、訪問診療時や家族会及び戸外レクリエーション時には、4名～5名体制で対応している。又、突発的な時にも柔軟な対応が出来るように、かねてより話し合いをしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員や管理者の移動及び離職を、必要最小限に抑えるように、努力をしている。職員がユニット毎の移動時でも、少しずつ馴染んでいただくように、時間をかけて配慮するようにしている。離職された方々も時々ボランティアとして毎月の行事等に参加されている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、可能な限り受ける様にしている。外部研修を受けた職員から他の職員への内部研修を行なっている。又、毎月1回、勉強会を開催している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームでの勉強会にも、管理者及びスタッフも参加できるようにしている。その為、ネットワークを活かして情報交換や相互訪問もおこなっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内での親睦会、忘年会やユニット毎の親睦会等をおこないストレスがないように取り組んでいる。又、個別相談にも対応している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長へ現場で起きている状況や職員の勤務状況や努力、成果等も報告し各職員が向上心を持ち資格習得に向けた支援もおこなっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望時の面談から利用に至るまでに、本人様が困っている事や不安なこと、求めている事等を傾聴、受容出来るように努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いに寄り添いながら、ご家族の立場に立って困っている事等を聞き、利用者の方を一緒に支えて行く関係作りをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族が今、必要としているサービスは無いかを見極め、他事業所等に連絡相談し、紹介するなどの対応もしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人様とご家族の方が、一緒に見学に来られ職員や他入居者様と、お茶を飲みながら談話し馴染みの関係を作り、納得して入居できるようにしている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の思いに寄り添いながら、思いや不安、苦しみ、喜び等を共に支え合えるような関係作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の方々ともお互いの立場を超えた関係を築いている。ホームでの行事等にも参加していただき、一緒に入居者の方を支えていく関係を築いている。家族の方々の相談にも対応している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の状況をこまめに報告したり相談したりし又、ホームの行事等にも参加していただき、より良い関係を築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方やお友達の方が、面会に来てくださる。又、帰宅願望のある方等は自宅に行ったり、お孫さんが経営されている店に、昼食を食べに行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係性についての、情報交換等もおこなっている。お茶や食後の時間にその方が得意とする、折り紙作成、トランプ、歌、昔話等を、職員も一緒に聞いたり、歌ったりして過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方々に対しても、家族からの継続的な相談にも対応している。退去された後にも利用者の方と一緒に面会に行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での言動から、ひとり一人の思いや意向を聞きだし本人の気持ちを尊重している。意思伝達が困難な場合にはご家族から情報を聴いている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に前の施設に足を運び、ご本人やご家族、関係者等から聞き取るようにしている。又、利用後もご本人やご家族からもどんな生活をされていたかを聴いたりしている。ご本人との日々の会話の中からも把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は日常生活の中で、それぞれの視点からその方の全体像を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス時に、職員の意見も聞いている。又、利用者が自分らしく暮らす事が出来るように、本人や家族からも意見を聴き、本人本位の介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直しをしている。状態が変化した時には、その都度、本人、家族の要望に応じて見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は、個々のケア記録に記入し、職員間の情報を共有することに努めている。特別な申し送り事項等は申し送りノートを活用している。又、個別記録を基に介護計画の見直しをし、評価に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じて買い物や外食、通院等、必要に応じて柔軟な支援を行っている。訪問看護によるリハビリ等も家族の要望に応じてしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けられるよう警察、町内会とも意見交換する機会を設けている。運営推進会議等に参加してもらっている。又、年2回安全に生活するために、消防署より来て頂き防火訓練等も行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて、訪問理美容サービスを受けている。その方によりパーマをかけたり髪を染めていただく方も居る。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には、まだ地域包括支援センターの職員に参加してもらっていない。(日程の調整が上手くかみ合わなかった時もあった)	○	今後、運営推進会議に、地域包括支援センターの職員の方にも参加していただくようにしたい。将来的には、地域包括支援センターと共同していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や利用前からのかかりつけ医での、医療を受けられるようにしている。月2回訪問診療をおこなっている。又、通院介助等も行っている。その結果等は、山田の里たよりや電話にて家族の方へは、報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後もお互いに協力し続けていく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化に伴うターミナルケアの研修会への参加を実践していく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、その方に合った言葉かけや対応に努めている。職員が個人情報法の理解や取り扱い等についても毎月の勉強会を通して周知するように努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人にわかりやすい言葉かけをしている。又、職員は利用者とは過ごす時間を通して、希望、関心事、嗜好等も見極めそれを基に、日常生活の中に取り入れている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人一人のペースを保ちながら過ごせるようにしている。その日の体調や気持ちの変化に、気を配り穏やかに過ごして頂けるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人様の希望を取り入れて、お化粧品やアクセサリー等は自由にされている。又、定期的に訪問美容の方の支援を受け、パーマや髪染め及び好みのヘアスタイルにされている。朝の着替え時には、一人で出来ない方には、職員と一緒に考えてするように心かけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の献立を紹介して、職員も同じテーブルで楽しく食べている。買い物や野菜の下ごしらえなどは手伝ってもらっている。季節の行事等の料理等は、利用者からもヒントをもらっている。月1～2回は外食も楽しませている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	1週間に1回は、夕食時に食前酒の日を設けている。お茶の時間や昼食後にはコーヒータイム等をとっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけをさりげなくおこなっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の曜日設定を行っているが、その時により拒否された場合等は時間をずらして入浴していただくようにしている。その方により午前中に入浴される方もいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来るだけ、日中は家事活動や散歩、レクリエーション等に参加していただき生活リズムを整えるように努めている。入居者の体調に合わせて昼食後は1～2時間、ゆっくりと休息がとれる様に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップかけ、洗濯物たたみ、下善等、出来る事得意とされている事は、お願いしている。その後は必ず、感謝の言葉を伝えるようにしている。月1回の戸外レクリエーションに、家族の方にも参加していただき外食等にも出かけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かりホームで管理している方が多い。利用者の希望により職員と一緒に買い物を楽しまれている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて散歩やスーパー等への買い物にも行っている。又、月1回は、家族の方々へも協力を得て外食に行ったりしている。外食会には家族の方も参加されている。今後も積極的に戸外へ出ることが出来るように支援したいと思う。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「家に帰りたい」「墓参りに帰ってみたい」「温泉に行きたい」等の利用者の思いがあった時には、家族と相談して職員の勤務調整を行い実現するようにしている。又、利用者の方が行きたいと思う場所への外出は個別ケアとして1ヶ月に1回位は、計画を立ておこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「出来ない」と決めつけずに職員が、声かけしたり見守ったりして支援している。毎年、暑中見舞い、年賀状等を出す事が出来るように支援している。電話の受けかけも出来るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間等は設けておらず、仕事帰りやご家族の都合の良い時間に、いつでも訊ねてきていただけるように配慮している。他の利用者に気兼ねなく殆どが、ご本人様の居室で過ごされる事が多い。その時には、必ず茶菓を出している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を、月1回実施して全職員が身体拘束についての勉強会を実施している。身体拘束によって利用者が受ける、身体的、精神的弊害について理解し、身体的拘束をしないケアをおこなっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し、ひとり一人のその日の気分や言動を細かく把握することで、日中は鍵をかけずに自由に生活出来る様に支援している。利用者の方が、外に行かれるような気配の時には、察知して一緒に散歩に出かけるなどしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、ホールで過ごされている方へは、一緒に家事や談話を行い居室で過ごされている方へは、プライバシーに配慮しながら見守りを行なっている。夜間帯は定期的に訪室し、利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くのではなく、利用者の状況を把握して注意が必要な物品等は、利用者の目の届かない所に保管する等し危険を防いでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のひやりハットを記録し、勉強会等の時にも取り上げて職員の共有認識を図っている。事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、家族等へも説明と報告をおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に2回、消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術、AEDの使い方等の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。緊急時対応のマニュアルも作成している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を経て避難訓練、消火訓練、避難経路の確認を、利用者及び家族の方も参加していただいております。運営推進会議でも地域の方へも協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人一人に起こりうるリスクについて、家族の方々にも説明している。又、その方に合わせて対応策等も、家族の方を交えて話し合っている。定期的に見直しもしている。		
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から利用者の状況を把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時には、バイタルチェックを行い、変化の記録を個々のケース記録に記載している。状況により主治医に連絡して指示をもらったり医療受診をするようにしている。朝夕の申し送りや連絡ノートで伝えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報綴りを作成し、処方箋が新しくなった度に入れ替えている。服薬時には、本人に手渡し、きちんと服用できるかの確認をしている。受診時にも、主治医より説明を受け申し送りノート等でも職員全員に伝わるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や手作りのヨーグルトを採り入れている。散歩や家事活動、体操等からだを動かす機会を適度に設けて、自然排便できるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけをおこない、利用者の力に応じて職員が見守ったり、介助をおこなっている。就寝前は義歯洗浄、除菌等も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の1日の栄養摂取総量や水分量をだまかに把握している。利用者の嗜好を把握し、献立に採り入れるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。また、利用者及び家族に同意をいただき、肺炎、インフルエンザ予防接種を受けている。職員もインフルエンザの予防接種を受けている。手洗い、うがいの励行にも努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は毎晩、漂白している。布巾等はその都度洗濯している。冷蔵庫も点検や掃除をおこない、食材の鮮度や状態を確認し、冷凍したり早めに使うようにしている。調理器具、台所水回りも清潔に保つように職員で取り決めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りには、植栽がしてあったりプランターに利用者と、一緒に植えた季節の花々で暖かい雰囲気になるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・ベランダには、季節を感じさせる花々を飾ったりしている。共有のスペースについては、整理整頓、清潔に努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で、気の合った方々は他者の気配を感じながらも、楽しく過ごされるようにソファや椅子、テーブル等を囲んで話をされている。又、個々の状態にあった居場所や環境作りに心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとダンスは施設側で準備したものではあるが、本人が使い慣れた鏡台や椅子等を用意されている方もいる。本人様も居心地良く過ごされる工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えや、湿度調節は常に意識して行っている。室温は気候を考慮し、調整している。トイレは換気扇や消臭剤を使って悪臭が出ないように工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状態に合わせて、トイレ、廊下、浴室等には手すり等を安全確保と自立の配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の出来る力を見出す事が出来るように工夫している。混乱や行動失敗が無いように、不安材料を取り除くように心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関スペースには、プランターや鉢花等を置き利用者の方と一緒に水撒きなどが、できるように工夫している。又、裏庭で季節の花々や野菜を作りを楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様がその人らしく、生活ができるようにさりげないサポートを支援出来るように職員は心がけています。日常的な買い物や外出、又、地域との関わりを大切に、活動に幅を広く持てるように努力しています。季節の行事や戸外レクリエーション等にも、家族の参加もあり利用者の方との絆が保たれています。